

京都建築事務所

想いをカタチに、想い以上の感動を



私たちは、医療福祉施設を中心に設計を行っています。クライアントの想いを叶え、それが社会貢献につながる設計を目指しています。

医療福祉施設の新築、増築、改修等、お気軽にお問合せください。

株式会社 京都建築事務所
代表取締役社長 細見 建司

〒604-8083 京都市中京区三条通柳馬場東入中之町 10 番地

TEL:075-211-7277 FAX:075-211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>



ロシアによるウクライナ侵攻に厳しく抗議する (3月8日・総合社会福祉研究所理事会)

ロシアは2022年2月24日、ウクライナへの軍事侵攻を開始しました。これは、ウクライナの主権と領土を侵害するものであり、国際紛争の解決を平和的手段と国際法の原則にしたがって解決することを定めた国連憲章を踏みにじるものであり、いかなる理由があっても到底容認できません。

また、プーチン大統領は2月27日に核兵器の使用を示唆し、3月4日にはロシア軍がザポロジエ原子力発電所関連施設への攻撃を行いました。このような行為はウクライナの人だけでなく、全世界の人びとを核兵器使用の争いに引きずりこみ世界を破滅にみちびくものとして厳しく警告し糾弾します。ロシア軍の攻撃の中止と即時・無条件の撤退を強く求めます。

ウクライナ市民の粘り強い抵抗があり、ロシア国内においても、そして世界の各地からも反戦の声が広がっています。一方で、力による対抗を強調する声や、「核共有」論を唱える声が、日本国内の一部政治家から出ていることは、唯一の戦争被爆国日本として恥ずべきことです。また、このような考え方は平和的生存権を明記した日本国憲法前文の立場を否定するものです。

力の論理を肯定することは、国際関係だけではなく身近な対人関係において、自分の意や利に沿わない相手を恫喝し力でねじ伏せる行為を肯定する立場に通じます。これは、お互いの尊厳を尊重し、違いを認め、対話をつくし、道理に叶った支援をすることを何よりも重視する、社会福祉の思想とは相容れないものです。また、過去の戦争により心身の障害を持つ人や孤児を多数生み出したことを福祉関係者は深く受け止めています。

このような立場から、ロシアによるウクライナ侵攻に対し厳しく抗議します。



75歳以上医療費2倍化はゆるさない! ——20万筆を超える署名を力に——

2月18日、20万4,692筆の「75歳以上医療費2倍化中止を求める署名」が、国会に提出された。単身世帯では年金をふくめて年収200万円以上、複数世帯では合計320万円以上で、後期高齢者の医療費窓口負担を1割から2割に引き上げる法律が成立したのは、昨年6月4日。全国の高齢期運動連絡会や年金者組合を中心に、窓口負担2倍化を実施させないことを求める署名にとりくんできた。



総合社会福祉研究所のある大阪市天王寺区には1400年以上の歴史のある四天王寺があり、毎月21日の大師会（弘法大師の命日）には縁日として露店も多くならぶ。たくさんの人が訪れるその日に合わせ、大阪高齢期運動連絡会と全日本年金者組合大阪府本部では、毎月、四天王寺の近くで署名活動をおこなう。



撮影にうかがった昨年12月21日は冬晴れの晴天。1時間ほど代わる代わるマイクをもち、窓口負担2割化への反対を呼びかけ、「マクロ経済スライド」による際限のない年金引き下げのおかしさ、最低保障年金の必要性、現役世代との対立をあおる現政権の意図などについて訴えた。コロナ禍で署名の訴えもむずかしいなか、チラシを受け取り、話を聞きながら署名してくれる方や、「もう署名したよ」という声も。



田村憲久元厚労相は「若い人々の負担の伸びを抑えていく目的だ。法律の趣旨、意図を国民に理解してもらいながら周知に努めたい」と説明するが、窓口2割負担化による現役世代の負担軽減は月わずか30円程度。2月18日の「75歳以上医療費2倍化中止求める署名提出集会」で学習会の講師をされた唐鎌直義さん（佐久大学教授、当研究所理事）は、「そもそも社会保障とは、富める者が富めない者に分配し社会を維持するものであり、現役世代が高齢者を支えるシステムではない。社会保障費による世代間対立をあおるのはおかしい」と指摘する。

（写真・文 申 佳弥）

●特集● 福祉の世界へようこそ！

人と関わる楽しさを知って、福祉の仕事に	松浦志留玖	10
利用者とともに考え、ともに成長する	本木美奈子	13
利用者の思いを大切にしたいMSWになりたい	津田ひな子	16
多様な価値観がゆるさる福祉現場へ	鯉沼 菜々	19
——あたらしく福祉現場に入職したみなさんへ——		
一人ひとりの子どもの育ちを、ともに	草野 彩佳	22
ここからがスタート！	三浦友莉恵	24
どんなに障害が重なかまでも、		
願いをもって成長しつづけます	仲 直美	26

●トピックス●

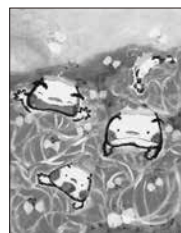
第26回合宿研究会 in 愛知 報告		28
「日本高齢者人権宣言（第二次草案）」の内容と意義		
	高田清恵・武市和彦	34
福祉実践と若者——いま、危機のなかにいる若者たち（後編）	山本 耕平	40

●連載●

WORK WORK——わくワク——

肉まんが売られています！ 社会福祉法人みなと福祉会わくす昭和橋		46
ミリタンが実現するフランスの福祉		
「うまくいっていない」と言える社会にする	安發 明子	48
かさねあい、はぐくみあう保育実践		
子どもと一緒に職員も成長できる保育園をめざして	三上 稀子	50
夕映えのとき～人生の終え方を支える実践～		
苦労を笑い飛ばす愛情深い母に「夕映えのとき」を	光永 了円	54
JOB&ACTION 全国福祉保育労働組合（13）		
国会議員との懇談を力に、配置基準と処遇の改善をめざす		58
私の履歴書 社会福祉経営全国会議（13）		
あきらめず権利としての社会保障の実現へ	佐藤 道子	60
阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎（33）	水野阿修羅	62
相談室の窓から		
コロナ禍3年目、根本にある問題の解決を	青木 道忠	64
育つ風景		
わかってもらうことで子どものなかに育つもの	清水 玲子	66
ひととしてあたりまえに生きたい		
施設建設委員長として（8）	清田 廣	68
映画案内 『ノマドランド』	吉村 英夫	70
現代の貧困を訪ねて 集団就職の時代・ロスジェネの時代	生田 武志	72
似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート		
超美人は超むずかしいのじゃ！	ラッキー植松	74
ホームレスから日本を見れば	ありむら潜	76
花咲け！ 男やもめ	川口モトコ	77

●表紙の絵●
神門やす子



学童保育は、 子どもたちを守る 地域の拠点

社会福祉法人熱田福祉会法人本部事務長 小堀 智恵子

「オレは学童やめたくない。Kくんとあそびたいから」。

夏休み明けの学童保育クラブで、上級生や同級生の退所がつづき、「さみしいね」と話していたときに、五年生の息子がボソッとつぶやきました。

同じ学童クラブのK君は、隣の小学校の同級生。一年生のときからしょっちゅうケンカして、暴れだすと双方ともに指導員に抱きかかえられて制止されるという手のかかりようでした。そんな二人が、今は大の仲良し。指導員から「二人が遊んでいると、下級生が一人二人と引き寄せられて、あこがれの存在になっているんですよ」と聞いたときには、おどろきでした。それよりなにより、仲間のなかで育ちあいながら「明日もこれからもずっといっしょに遊びたい」という友だちができたこと、「やめたくない」と自分の意思を明確に言葉にしてくれたこと、見守ってくれている大人がいることが、私にはとてもうれしかったです。

子どもたちのこうした育ちの裏方には、キャンプやバザーなどの行事を子どもと父母と指導員がごっちゃになって取り組む大人の仲間関係があります。価値観は多様ですが、「子どもたちのために」と大人もまたひと肌脱いで役割を引き受け、仕事以外で大人がつるむおもしろさがうまれ、そのパワーに支えられて子どもの育ちの場が展開されているのです。

コロナ禍のこの二年間、学童クラブではほとんどの行事ができずにいます。しかし、学校でもなく家庭でもなく子どもが主役となる場所が地域にあり、先生でもなく親でもない指導員の見守りがあることは、コロナ禍で子どもの育ちを守る希望的存在といっても過言ではありません。



こぼり ちえこ

振り返ってみれば、子どもの頃から生きにくさを抱えていただろうに、わたし以上に個性的な人との出会いに恵まれ、自己主張を貫いて今に至る。家族は小学生の子ども2人と事実婚の夫1人。週末はスーパー銭湯が定番。

ところで、この原稿を執筆している現在、新型コロナウイルス感染症のいわゆる第六波の渦中にあります。私は社会福祉法人の法人本部に勤めているので、各施設から、感染症にまつわる数々の情報が集中し、情報整理しながら、対応の判断を集団で確認する作業がづいています。

実はさらにその傍らで、わが子が通う学童クラブでも同様に感染症対応をしています。わが子の学童クラブは制度上、児童委員や区政協力委員などの地域役職者による運営委員会によって運営されています。実態としては、父母会と指導員がともに、日々の実務と判断を担っています。私は現在、父母会の役割の一つとして運営委員長を務めています。社会的には法人格のない「権利能力なき社団」の代表者となります。つまり、社会福祉法人に勤務しながら、いっぽうで父母の共同で指導員を雇用し、わが子を含め七〇名ほどの児童をお預かりしていることになるのです。そして、先輩父母から約四〇年間受け継がれてきたこの学童クラブを、これから必要としている子どもと保護者のために、指導員の雇用を守り、次へとつないでいかなければなりません。

学童保育は、一九九八年に放課後児童健全育成事業として児童福祉法に明記された社会福祉事業です。コロナ禍で社会的に欠かせない存在として注目されてきました。その役割は、放課後の子どもの居場所と、保護者の子育てと仕事の両立保障にとどまりません。学齢期の児童の発達保障の場であり、子育ての共同関係を創造する、地域の拠点となっています。しかし、その運営体制はあまりに脆弱で、指導員の処遇はきわめて低く不安定です。「人権として保障する学童保育」のあり方を、コロナ禍のいまこそ問わなければいけないと強く思います。

社会を変える、福祉のつばと

コロナ禍でむかえる新年度は、今年で三回目となります。この間、学生さんにとっては現場での実習も十分にできず、入職してもイレギュラーな対応や実践がつづき、研修や職員間での交流もままならない状況がつづき、例年以上に不安や悩みを抱えながらがんばっている新人職員さんがたくさんおられると思います。

今号の特集では、四月から福祉現場に入職する四名の学生さんに登場していただきました。みなさん、自身の経験や実習、大学での学びをとおして、福祉のしごとの意義や役割を真剣に考え、やりたいうことや目標をもって福祉のしごとを選んでおられました。

福祉のしごとは、人々のいのちと暮らしを守り、人と関わるなかでさまざまなことを学び、自身も大きく成長できる、とても魅力的なしごとです。しかしいっぽうで、社会福祉にかかわる仕事の賃金は全産業平均から月一〇万円も低く、当研究所と福祉保育労が合同でおこなった「コロナ禍で福祉にはたらくひとの声アンケート」でも、「仕事の重要性や社会的責任の割には評価が低いと改めて感じた」人が五七％に達しています。

特集では、先輩職員から新人職員へのメッセージも紹介しています。そのなかで、聴覚障害者施設

で働く三浦さんが、数年前まではスーツで出社する同年代の人を「ザ・社会人」だと感じ、「それに比べて自分は……」という思いをもっていたことを、率直につづてくださっています。この気持ちに共感する人は多いのではないのでしょうか。福祉のしごとは大卒でなくても、資格がなくても引く手あまた。賃金は低く激務……社会に欠かせない仕事であるにもかかわらず、政府は「医療費や社会保険費の増大こそが日本が経済成長できない原因だ」というデマを意図的に発信しつづけ、福祉のしごとのイメージやそこで働く人は、社会の中で低位に位置づけられてきました。

『日本再生のための「プランB」医療経済学による所得倍増計画』（二〇二一年、集英社新書）のなかで著者の兪炳匡^{ゆうへいきやう}さんは、医療や福祉の産業がいかに関係経済成長や雇用の創出に貢献するかということ、具体的なデータをもとに詳細に論じています。医療や福祉は経済成長のお荷物ではなく、医療や福祉こそ経済成長に欠かせないことは、いまや欧米諸国では共通認識として広がっています。

かんたんに輸入や輸出ができず、AIや機械にとって代わることでできないケアに関わる産業は、今後決してなくなることはなく、かつ産業のなかでも大きな位置を占めることになります。そこで働く労働者がまっとうな賃金を得て、そのお金を日々の衣食住や余暇に使うことが、日本経済をまわす大きな力になるということです。あらたに福祉のしごに入職される方々にも、低賃金や専門性を発揮できない環境を「自分が福祉の仕事を選んだのだから仕方がない」とあきらめるのではなく、専門性の面でも、職業としての位置づけの面でも、誇りをもって改善を訴えていく、社会を変えていく一員になっていただけたらいいなと思います。

（編集主任）